

# いのちと健康を守る活動

## マラウィ避難民支援に感謝 パートナー団体PIHS及び日比NGOネット/JPNによる支援報告



### パートナー団体 PIHS の避難民支援活動

前号ではお伝えできなかった PIHS による救援活動について、7月31日に実施したという報告が届きました。過去にも協力したことがあるコタバト市のバンサモロ開発(BMD)と一緒に、イリガン市の避難民センターを訪ねて古着や食料を配り(写真)、その後、PIHS はより辺境のパロイ地区で医薬品、衛生用品を500世帯に配布しました。短時間の救援活動で、医薬品配布の写真は撮影できなかったということです。

また、イリガン市からコタバト市まで10時間、さらにファティマの助産所建設現場に戻るには数時間かかる等、移動に時間をとられるため、PIHS は助産所事業に集中することにして、現地訪問での支援は当面行わないことになりました。

### 日比 NGO ネットによる避難民支援活動報告

JPNでは8月31日までに受領した寄付105,000円を、これまでも台風被災地支援などで協働したバライ・ミンダナオ財団に送金。9月中旬にはJPNスタッフもバライ・ミンダナオ財団の案内で避難民センターなどを訪ねました。

避難センターに入っている避難民は4200世帯の2万3千人で、それ以外の避難民は38万5千人だそうです。そのうち知人や親類に寄留する避難民には支援物資が届かず、一番困っているようです。しかも一軒につき、数家族から10家族も身を寄せているケースもあるとのことで避難生活が長引く中、受け入れた家族との間のトラブルも生じているとの報告もあります。

\* 左記のように、私たちのパートナーであるPIHSによる避難民支援は一時中断することになり、私たちHANDSの今後の支援はJPN経由とさせていただきます。ご了承ください。



バライ・ミンダナオ財団は、避難民への飲料水供給を担当しており、雨水や河川から汲んできた水を消防車で避難民センターに運び、その水をろ過器で濾して人々に供給しています。

## 母子のいのちを守る拠点づくり、助産所開業までの課題

前号で建設工事の遅れに触れましたが、7、8月の長雨、豪雨で、さらに工期が延びています。

現時点では内装や電気工事、ドア工事などが残っていて、遅くとも年明けの開業を目指しています。但し、開業しても、保健省の正式認可に至るまでに50例の出産介助の実績が必要です。

各地区のヘルス組合を中心に、現8つのバラングアの妊婦の検診、出産予約を受け付け中で、これらのコミュニティベースの活動は、JOFPA看護奨学生だったモナリサが中核となり進めています。家族に深刻な問題を抱えて、看護コースは中退しましたが、10月下旬の後期からは助産師コースに変更して、学業も再開の予定です。



(写真左) 当初民族調を考えたが、建築士の助言で、白を基調とした外観と内装になった助産所(9月末)

(写真上) 保健省他の各種行政機関との手続きに忙しい助産師ハリマ(事務能力を買って開業前、8月から雇用した)



会員・市民のご協力に感謝！ 今後とも引き続きよろしく願いいたします。

助産所事業は、資材費値上がりのほか、産後回復室も設置することになり、建設費が30%ほど増えました。自己資金分の準備がまだ十分ではありません。今後ともご協力よろしく願いいたします。